

人間ドックを始めました。

健康な生活を守るためには、疾病の予防と早期の発見が何より大切です。

がんなどの悪性疾患はもとより、心臓疾患、脂質代謝異常、糖尿病・肥満などの生活習慣病は、初期には無症状であるため、知らず知らずのうちに進行してゆきます。

しかし、これらの病気も早期にその芽をみつけて治療を始めれば治癒させることも可能です。

当院の人間ドックでは、最先端の検査機器と検査技術に加え、治療が必要な際には、当院の臨床経験豊富な専門スタッフが全面的にフォローアップする体制を整えております。

この機会に是非ご利用いただければと思います。

★ご予約・お問い合わせ時間

(健診は完全予約制となっております。)

月曜日～土曜日 (祝日を除く)

午前 9 時 00 分～午後 5 時 00 分

TEL: (06) 6606-6500

FAX: (06) 6606-0055

★健診曜日と時間

水曜日・木曜日 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分

★受付時間

午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分

※健診結果は、約 2 週間後にお送りいたします。

東住吉森本病院・がん患者サロン

闘病中のがん患者様・ご家族・がん経験者の交流の場が「がん患者サロン」です。一緒に語り合いませんか? 自由参加ですのでどうぞお気軽にお立ち寄りください。

日時: 毎月 第 2・第 4 金曜日 (祝日お休み) 15:00～17:00

場所: 東住吉森本病院 6 階 職員食堂

問い合わせ先: 医療法人橘会 東住吉森本病院 緩和ケア委員会

TEL: 06-6606-0010 (9 時～17 時) (内線 2401 まで)

※右のパンフレットは当院ホームページよりダウンロードいただけます。

<http://www.tachibana-med.or.jp/other/ganshinryou/index.html#c02>

東住吉森本病院・がん患者サロン

がんによる痛みやからだ・こころのつらさ
我慢していませんか?

ひとりで抱え込んでいませんか?

闘病中のがん患者様・ご家族・がん経験者の
交流の場が「がん患者サロン」です
一緒に語り合いませんか?

自由参加ですので
どうぞお気軽にお立ち寄りください

日時: 毎月 第 2・第 4 金曜日 (祝日お休み)

15:00～17:00

場所: 東住吉森本病院 6 階 職員食堂

大規模災害訓練

2012 年 10 月 28 日、10 月最後の日曜日を利用し、大規模災害訓練を行ないました。今回は、”10 月 29 日午前 9 時 35 分に上町断層にて M7.5 直下型地震が発生、大阪南部地区に災害対策本部が設置され、第 2 配備体制となった。”という設定でした。訓練の形態としては、あえて事前の役割担当などを決めないブライント型訓練にチャレンジしました。例年とは一味違った訓練でしたが、これまで以上に臨場感がありました。当日は、職員 181 名の参加に加え、大阪市消防局より 5 名の方々に協力頂き大変有意義な災害訓練となりました。



第3回 大阪市南部地区医療講演会

開催日：2012/12/20(木) 18:30～20:30

場所：シェラトン都ホテル 3階『葛城の間』

座長：東住吉森本病院 院長 瓦林 孝彦先生・副院長 田中 宏先生

今回、第3回を迎えた阪市南部地区医療講演会が開催されました。これは、当院の医療機能を地域の医療機関に紹介する目的で毎年実施しております。各診療科より次のような講演がありました。

1. 「当院 脳神経外科における症例報告」

講師：東住吉森本病院 脳神経外科 医長 児玉 隆浩先生
原発性前頭洞粘液嚢胞に対する前頭開頭術を脳神経外科と形成外科との共同で行なった症例の解説。
各診療科の専門技術を生かしたスムーズな手術パフォーマンスを実践した例でした。

2. 「当院 救急外来の活動報告」

講師：東住吉森本病院 救急・総合診療部 部長 池邊 孝先生
”断らない救急”をスローガンに当院の新ER体制について解説。充実した救急医療設備、日常のスタッフ教育や院内診療科との強固な連携、など当院救急のポリシーを説明し今後の展望も述べました。

3. 「成人鼠径ヘルニアに対する個々の病態に応じた3つのアプローチ ～ 腹腔鏡下修復術を中心に ～」

講師：東住吉森本病院 外科 医長 酒部 克先生
鼠径ヘルニア手術についての解説を腹腔鏡下修復術を中心に行ないました。従来法と比較し、腹腔鏡下アプローチの特徴を述べ、その手術症例を実際の動画で解説しました。

4. 「心血管疾患に対する炭酸ガスミストの効果。」

～ 基礎実験から臨床応用へ ～

講師：東住吉森本病院 循環器内科 副部長 中村 泰浩先生
炭酸ガスミスト発生器の開発プロジェクト及びその有効性に関して解説。炭酸ガスミストの原理と有効性を心筋梗塞モデルラット、下肢虚血モデルマウスを用いた動物実験結果で解説し、加えて臨床応用の可能性も示唆しました。

5. 「関節リウマチの臨床」

講師：東住吉森本病院
リウマチ科・整形外科 部長 乾 健太郎先生
リウマチ治療においては、関節破壊の予防が大きな目的となるが、そのためには早期診断、早期治療が重要になる。これらに関して診断基準や治療方法を解説しました。また診断未確定関節炎(UA: Undifferentiated Arthritis) 群症例についての診断見解や治療についても詳しく解説しました。

6. 「実臨床における”胃瘻”」

講師：東住吉森本病院 内科 内視鏡部長 仲川 浩一郎先生
食物などの経口摂取が不可能または困難な患者に対してのアプローチの一つとして”PEG: 経皮内視鏡的胃瘻造設術”がある。今回はそのPEGにおける手技方法や、造設後、起こりうる合併症リスクについて解説しました。また、胃瘻造設が困難なケースについてPTEG(経皮経食道的胃管挿入術)の手技についても詳しい解説がありました。

講演会としては、比較的長時間でありましたが、総勢110名を超える参加者で大盛況に終わりました。



第3回 南大阪末梢循環セミナー

開催日：2012/11/15(木) 18:30～20:20

場所：天王寺都ホテル 5階『信貴の間』

座長：症例発表：東住吉森本病院 循環器内科 部長 坂上 祐司先生

特別講演：東住吉森本病院 院長 瓦林 孝彦先生

第3回を迎えた南大阪末梢循環セミナーでは、症例報告に当院の2名の医師が発表しました。循環器内科 藤田 琢也先生による「糖尿病性神経障害に合併した左下肢 CLI の一例」と同じく循環器内科 多田 洋平先生より「重症下肢虚血 (CLI) に経皮的下肢動脈形成術を施行した一例」。いずれも当院で経験した重症虚血肢に関する診断・治療の報告でした。続いて心臓血管外科 部長 南村 弘佳先生より9月よりスタートした東住吉森本病院のフットケア外来開始について説明がありました。特別講演では、仙台厚生病院 循環器内科 主任部長、東京蒲田病院 循環器内科 井上 直人先生より「PAD 治療の現状から診断・治療について」というテーマで講演があり、末梢動脈疾患 (PAD) に関するリスク因子を始め、患者の QOL を判断基準にした介入のプロセスと治療戦略の解説があり、また腎動脈狭窄の最新トピックにも触れ、講演後も積極的な質疑応答があり盛り上りました。

第5回 東住吉がん診療連携懇話会

開催日：2012/11/17(土) 17:00～19:00

場所：スイスホテル南海大阪 8階『白鳥の間』

座長：一般演題 東住吉森本病院 肝胆膵内科部長 藪さこ 恒夫先生

特別講演 東住吉森本病院 肝胆膵外科部長 清田 誠志先生

大阪府がん診療拠点病院として恒例的に実施している第5回東住吉がん診療連携懇話会が開催されました。一般演題の部では、内視鏡部長仲川浩一郎先生より「異時性再発の早期胃がん6病変を内視鏡的に切除した1例」と題して、8年間に6回ものESDで切除し得た早期癌症例が紹介され、多発胃がんについての解説がありました。続いて外科部長 金沢源一先生より「進行大腸がんに対する積極的な治療戦略」と題して、肝転移に対する HALS (Hand Assisted Laparoscopic Surgery) の実施や、イレウス症例に対する腸管ステントを併用した一次的切除術などの新しい試みをが紹介されました。続いて、緩和ケア認定看護師の江口由紀看護師から「緩和ケア普及に向けた院内外への取り組み」と題して、緩和ケアに関する院内・院外勉強会、がん患者サロンなどの紹介がありました。最後に、田中 宏副院長から「国や府が進める新たな「がん対策」：当院の立ち位置とその目標」として、当院におけるがん診療の現状をふまえ、国や府が進めようとするがん対策を当院としてどのようにして実施してゆべきかについての説明がありました。

特別講演では、湯川胃腸病院ホスピス科 科長の林 博文先生より「私の考える緩和ケア」と題して、いわゆるホスピスらしい症例、ホスピスに来てはいけなかった症例、ホスピスであっても回復が見られた症例など、感動的なエピソードを交えながら紹介いただき、2,000例を超える患者様を看取られた経験から、先生がお考えになる「緩和ケア」についてのご講演をいただきました。会場には、近隣の医療関係者を含む100名近くが参加され、熱心に聴いておられました。

東住吉地域連携 骨粗鬆症 Forum

開催日：2012/12/13(木) 19:00～

場所：ホテルモントレグラスミア大阪 23階『アマリー』

座長：リウマチ科 整形外科 部長 乾 健太郎先生

今回は、骨粗鬆症にフォーカスした地域連携フォーラムが開催されました。

特別講演として、当院からウマチ科 整形外科 医長 大はた 武夫先生が、「大腿骨近位部骨折の当院での治療方針と現状」という演題で発表。

65歳を超える高齢者は、基本的に下肢骨折のリスクが高まる。これは身体の老化に伴う運動器不安定症¹⁾が原因である事がわかっている。そこでその骨折予防を目的とする骨粗鬆症治療を行なうことは、大変重要である。また、骨折が起ってしまったら早期離床のため手術による治療が必要となるという内容でした。骨粗鬆症治療については、ビスホスホネート製剤の最近の話題にふれ、また骨折の治療に関しては、大腿骨近位部骨折にフォーカス、特に大腿骨頸部骨折については、Garden 分類に基づいた症例ごとの当院の治療戦略を述べました。また VTE (静脈血栓塞栓症) の予防と治療という話題にも触れ、当院循環器内科との連携により作成したプロトコールに基づく治療戦略も解説しました。講演後は、地域の医療機関の先生方との間で質疑応答が活発に行なわれ、盛況のうちに終わりました。(運動器不安定症¹⁾ バランス能力や移動歩行能力の低下が生じ、転倒リスクが高まった状態)



平成 24 年度 Q C 活動発表会

2013 年 1 月 9 日に恒例の QC 活動発表会が行なわれました。当院では病院活動を各セクションレベルで改善するプログラム、QC (Quality Control) 活動を導入しており、全職種で行っております。当日は、その中でも特に選ばれた 7 グループの発表がありました。検査科の環境整備、患者様への IC に関する改善や依頼書類の迅速化、外来待ち時間短縮への取り組み、新人夜勤看護師の支援体制の改善、感染予防関連、がんサロンの開設など様々な改善事例の報告がありました。受賞したグループには賞金が授与されました。



クリスマスコンサート & イルミネーション

2012 年 12 月 19 日、今年も東住吉森本病院恒例のクリスマスコンサートを開催しました。院長の挨拶に続き、大阪市立大学医学部オーケストラ部によって、クリスマス曲や親しみやすい名曲の数々が演奏されました。患者さんやご家族など、外来フロアが一杯になるほどの参加者で埋まり、最後には、「上を向いて歩こう」「ふるさと」の大合唱で盛り上がりました。今年も当院職員（田中副院長、佐々木医師、森看護師）も演奏に参加しました。



<大阪市立大学医学部オーケストラ部の皆さんの演奏風景>

<当院中庭に設営された美しいイルミネーション>



編集後記

広報室 M

12 月の寒い日にある田舎のカフェに立ち寄ったのですが、お店に入るといきなりカワイイ光景が！！ストーブの上に猫ちゃんたちが気持ちよさそうに寝ているのです。（もちろんストーブ本体はガンガンに燃えてましたが。。。）実際にさわってみました、ストーブ上部のプレートは何故か程よい温度になっておりました。

お店の人の話によると、猫ちゃんたちは、自分達でこのスポットを見つけてここで寝るのが日常となっているらしく、最大 3 匹は乗れるようです。この後、子猫もこの 2 匹の間に割り込んで寝てました。ちなみにこの上部プレートはたどり着く方法は、フロアからジャンプして上手に着地という感じでした。何とも癒されました。

<ストーブでうたた寝する猫たち>

<最大 3 匹乗る光景>

